

report 2012

取り組み報告書

～未来のために、子どもたちのために～

アカチャンホンポ



はじめに

アカチャンホンポは、お客様をはじめ、地域社会や従業員から信頼される誠実な企業を目指し、さまざまな場面で、取り組みを行っています。お客様へ安全・安心な商品をご提供するために厳しい社内基準を設け、品質管理体制を構築するとともに、店舗環境についても、より安全で快適な設備にする努力を続けています。また、事業特性を活かした子育てを総合的に支援するための情報の提供や、イベントなどの「コト」の提供も積極的に行ってきました。さらに従業員に向けては、魅力ある職場にするために、やりがいの持てる制度づくりに取り組み、個々のスキルアップもバックアップしています。地域社会や国際社会に対しても、環境問題への取り組み、地域社会との共生、社会貢献活動にも力を入れています。創業80周年となった2012年を機に、新たに始めたことを今後も継続しながら、「アカチャンホンポだからできること」に、取り組んでいきます。

目次

お客様に向けて 3

●安全・安心な商品とサービスの提供

- ①商品や取引の法令を遵守する体制
- ②お客様の期待に応えるサービス向上
- ③安全で快適な店舗設備
- ④キッズデザイン賞の受賞
- ⑤子育て社員の声を活かす社内SNSやママコミュニティの活動

●子育て支援活動

- ①マタニティスクール
- ②プレパパナイトツアー
- ③店内イベント・ワークショップ

従業員に向けて 6

●働きがいのある職場づくり

- ①多様な人材の活用
- ②多様な働き方を認め、やりがいの持てる制度づくり
- ③能力向上支援

社会への貢献 7

●環境負荷の低減

- ①エコ割引の推進とレジ袋削減への取り組み
- ②節電
- ③リサイクル

●地域社会との共生

- ①地域の子育て支援活動
- ②地域教育機関との連携

●社会貢献活動

- ①ホワイトリボン運動
- ②被災地の妊産婦支援
- ③その他の活動

お客様に向けて



●安全・安心な商品とサービスの提供

①商品や取引の法令を遵守する体制

【商品の品質】

アカチャンホンポのお店には、たくさんの商品が並んでいます。食品はもちろんのこと、赤ちゃんの口に触れる玩具や食器、雑貨類などは、アカチャンホンポ独自の品質基準、業界基準、法令に基づいた厳格な品質管理を行っています。繊維製品については、「アカチャンホンポ子供服安全基準」をもとに、フードや引き紐など、安全性に関わる項目を設定し管理しています。また、公的検査機関による生地や製品に対しての品質検査データを「見える化」し、商品部門、品質管理部門、お取引先、工場がリアルタイムで情報共有できる「アカチャンホンポQCweb」というインターネットシステムを、業界に先駆けて開発し運用しています。また、定期的にお取引先と「品質改善会議」を開催し、現状の問題点を参加者が話し合うことにより、品質管理意識の維持向上を目指しています。商品の品質、安全性を厳しく管理することは、赤ちゃん用品をお客様にご提供する企業にとって社会的使命であると考えています。



↑ 公的検査機関で当社商品の試験を実施しています。写真左から、強度試験の様子、摩擦堅牢度試験の様子、ホルムアルデヒド含有試験の様子。

↑ お取引先との品質改善会議の様子。

【お客様への約束】

商品の表示、店頭のPOPはお客様が商品を選択する際の重要な情報です。「お客様に信頼される誠実な企業」であるために、関連法令を守り、お客様の誤解を招かないよう、正確でわかりやすい表示情報の発信に努めています。例えば、FT（フェアトレード）室を設け、全店舗の店頭表示状況の確認や、売場での教育を行う「FTラウンド」を実施しています。この店頭表示チェックでは、実態を客観的な数値で評価し、その結果をもとに店長や副店長と改善に向けた具体的な対策を講じています。また、表示に関する注意点などをまとめた「FT週間情報」を定期的に各店舗に案内し、全従業員と最新の情報を共有しています。DMチラシ、カタログ、パンフレットなどの各種広告媒体についても、記載されている商品情報や価格情報が正確であるか、お客様の誤解を招く情報が載っていないかなどを事前にチェックしています。

【お取引先への約束】

公正な取引の徹底は、事業活動の大前提であり、お取引先に対する責務と考えています。「お取引先に信頼される誠実な企業」であるために、FT委員会の設置などの体制を整備するとともに、社員教育の充実を図っています。公正取引に関する社員教育の実施や「商談メモ」などを用いた取引内容の文書化を指導し、優越的地位の濫用や下請法違反といった法令違反や反社会的な行為を防止しています。

②お客様の期待に応えるサービス向上

「年中無休、無料通話ダイヤルのお客様ご相談窓口」（受付時間9時00分～17時30分）を設けて、お客様からのご要望、ご意見、お問合わせなどを承り、迅速かつ誠実に対応しています。さらに、これらお客様の声を関係各部署で共有し、改善を図っています。また、お客様対応支援システムの導入により、お客様相談窓口と、関係各部署、店舗との連携が強化され、お客様からのお申し出に迅速な対応が可能となり、お客様の声を適切に経営に反映するために、いただいた声をデータベース化し、蓄積する仕組みを構築しています。

③安全で快適な店舗設備

安全で快適な売場作りを目指し、店舗におけるさまざまな工夫をしています。商品を並べる棚の角を丸くしたり、飛び出したフックが危なくないようにフックカバーをつけたり、ハサミやカッターナイフの使用を厳しく管理するなど、安全な店舗環境となるよう配慮しています。また、快適にお買物をしていただくために、柱のサインを見れば一目でどこに何があるかわかるように商品カテゴリーを詳しく表記したり、サイン毎に番号を入れることで、場所のご案内をわかりやすくする柱分類サインを導入しました。2012年の新しい取り組みとして、タブレット端末を使用した新しいお買物スタイルをご提案し、10月にセレオ八王子店へ導入しました。



・商品陳列棚

棚の角を丸く加工し、当たっても怪我をしないように工夫を施しています。（一部の棚を除く）



・柱分類サイン

売場内の全ての柱に「通し番号」を表記。お客様にご案内し易い工夫を施しています。また各商品群名も日本語と英語の二カ国語で表記し、外国のお客様にも分かり易くしています。（2012年9月以降の新店から）



・スマートショッピングコーナー

売場で見たい商品や売場に展示していない商品を専用端末でご注文いただき、最短で翌日お届けします。荷物を持たず、スマートにお買い物をしていただくことができます。（セレオ八王子店）

お客様に向けて



④ キッズデザイン賞の受賞

2012年7月、「クイックエアバス」「ベビー ニコイチ!ハンガー」「アカチャンホンポの親子ワークショップ」が特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催の第6回キッズデザイン賞を受賞しました。



キッズデザイン賞は、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。

【クイックエアバス】

空気入れを使わずにすばやく膨らみ、すばやく空気を抜けるようにするため、特殊バルブを開発し、それを使用したベビーバスを作りました。



【ベビー ニコイチ!ハンガー】

少しでも、家事の時間を短縮できるようにしたいと思い開発。2本のハンガーを組み合わせることで胴部に空間をもたせ、また本体に星型の穴を付けることで、服を干した際に風通しがよく、はやく乾くよう設計しました。



【アカチャンホンポの親子ワークショップ】

2011年には、13種類のワークショップを、延べ726店舗で実施。全国のアカチャンホンポの店内スペースにて、「アカチャンホンポの親子ワークショップ」を開催。子どもの創作意欲を引き出すワークショップテーマの提案で、自由な発想で創造する機会を提供するとともに、親子のコミュニケーションの機会としました。



⑤ 子育て社員の声を活かす社内SNSやママコミュニティの活動

妊娠・育児中の従業員約50人で構成された社内SNS「育アカチャンネル」で随時アンケートをとり、育児に関わる生の声を聞いたり、「ママコミュニティ」の活動として、社内ママたちの意見を聞く場を設けたり、ケータイサイトでのアンケートから、ママたちの声を商品開発や、よりよいお店づくりに取り入れています。



↑ ママたちに集ってもらい発売前の商品について意見を聞いている様子

● 子育て支援活動

① マタニティスクール

マタニティスクールは、ご夫婦で参加していただき、助産師を講師に招いての講義や沐浴実習、パパのマタニティ体験を行うイベントです。初回の開催は1985年。当初から、パパにもご参加いただくことをおすすめしてきました。2012年、開催回数が3,000回を迎え、マタニティスクール3,000回記念イベントを11月11日に東京で、12月2日に大阪で開催し、各会場150組300名の方にご参加いただきました。



→ マタニティスクールの様子 写真左上から、沐浴実習、新生児の抱っこ体験、マタニティ体験の様子



↑ マタニティスクール3,000回記念イベントの様子

左：人気マタニティ・ベビー情報誌の編集長5人が語るトークイベントを開催
右：人形を使った沐浴実習の様子

お客様に向けて



② プレパパナイトツアー

パパの育児を応援するイベント「プレパパナイトツアー」。パパが仕事のあとでも参加できる時間に、妊婦の身体の変化や妊娠から育児までの必要な商品について学ぶことができます。11月19日は、いいイクメンの日として、11月はイクメン月間のプレゼントキャンペーンも実施しました。2012年、全店で延べ約300回開催しました。



プレパパナイトツアーの様子

③ 店内イベント・ワークショップ

【創業80周年記念のイベント】

■全国子育て応援ご当地キャラ1日店長リレー

創業80周年記念イベントとして、その地域のご当地キャラクターを1日店長として迎え、子どもたちと触れ合いながら、たくさんのファミリーに笑顔をお届けしました。また、お店からお店をリレーでつなぎ、宮城県の仙台泉店からスタートして、佐賀県の鳥栖店まで、全国の83店舗で写真撮影会を実施し、合計5,000組の皆さまにご参加頂きました。



写真撮影会にご参加いただいた皆さま

<http://www.akachan.jp/80th/chara/index.html>

■ハイハイマラソン

創業80周年記念イベントとして、ハイハイレース特別版、みんなでめざそう42.195km「ハイハイマラソン」を実施しました。12月には目標を達成し、見事ゴールすることができました。全国13,119名のお子さまにご参加いただき、皆さまの笑顔とハイハイをつないだメモリアルイベントとなりました。

■80周年記念フェスタ

創業80周年記念特別企画として、夏休みに、東京都のアリオ亀有店、アリオ北砂店、埼玉県のアリオ川口店、神奈川県のアリオ橋本店の4店舗で、「80周年記念フェスタ」を開催。ハイハイレースやベビーサイン体験教室、ご当地キャラクターとの写真撮影会に加えて、「アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト」チャリティ企画として、似顔絵師による似顔絵ライブイベントや、チャリティワークショップも実施。盛りだくさんの内容で各会場とも400人を超える参加者が集まり、盛り上がりました。



ハイハイレースの様子



チャリティワークショップの様子



ハイハイマラソンにご参加いただいた皆さまとの記念撮影

【アカチャンホンポの親子ワークショップ】

親子でお楽しみいただける店内ワークショップイベントとして、2012年は下記のテーマで実施しました。

- 1月 「オリジナル手回しゴマ作り」 55店舗で実施
- 2月 「ダンボールお雛さま作り」 57店舗で実施
- 3月 「木のねんど工作」 57店舗で実施
- 4月 「ぬりえ付こいのぼりロケット作り」 60店舗で実施
- 5月 「はってかさねて色であそぼう」 48店舗で実施
- 10月 「てがたすたんぶでお子さまの成長を記念に残そう!」 53店舗で実施



10月10日(トツキトウカ)の記念イベントとして、「てがたすたんぶでお子さまの成長を記念に残そう!」を実施。「アカチャンホンポの親子ワークショップ」は2012年、第6回キッズデザイン賞を受賞しています。



KIDS
DESIGN
AWARD
2012

従業員に向けて



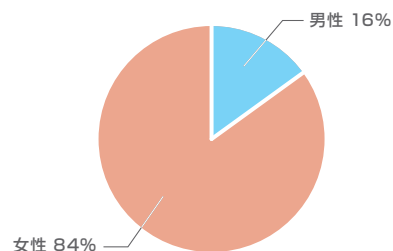
●働きがいのある職場づくり

①多様な人材の活用

【女性の活躍】

アカチャンホンポの正社員は約半数が女性であり、従業員全体では80%以上を女性が占めています。このためさまざまな施策を通じて、女性の活躍を推進しています。その一環として、女性スタッフのみで運営する店舗を2012年4月から発足させました。また、女性の役職者は正社員全体の20%を占めており、年々増加し活躍しています。お客様も大半が女性であることから、女性ならではの視点での売場づくりや接客はもちろんのこと、マネジメントにおいても、女性同士だからこそ相談できる活発なコミュニケーションで、問題解決にあたっています。

■従業員数計(正社員・パート含む)



【障がい者雇用について】

障がいのある方が活躍できる職場づくりに積極的に取り組んでいます。ハローワークからの紹介だけでなく、特別支援学校や就業・生活支援センターとも連携し、障がいの程度に応じて、配属先・業務内容・就業時間などを決定しています。一部では、入社される前の不安を和らげるために、職場体験を通じてさまざまな業務を経験してもらい、十分に能力が発揮できるよう職場への適応状況を把握し、必要に応じて環境改善や現場の責任者へ助言やサポートを行っています。また、業務を容易にするために、読書拡大機や大きなPCモニターを導入するなど、働く環境整備にも積極的に取り組んでいます。

②多様な働き方を認め、やりがいの持てる制度づくり

【公正な評価・処遇】

2011年9月から人事評価制度を一新しました。新たな人事評価制度では、自己評価と上司との面談が加わり、この面談を通じて、本人に評価結果を伝えるだけでなく、「良かった点」「今後さらに伸ばすべき点」「改善すべき点」などを互いに共有して、評価の透明性・公平性を確保するとともに、人材育成につなげることを目指しています。

【ワークライフバランスの実現に向けて】

2012年4月から人事制度を改定し、社員が自分のライフスタイルに合わせた働き方を選択できる社員群制度を導入しました。特に出産や子育て、介護などで仕事と家庭の両立が必要な場合には、転居を伴わない働き方が選択できる制度です。一方、全国に転勤可能でキャリアアップを目指す社員は、ナショナル社員を選択することができます。また、パート社員からの社員登用試験も毎年実施し、5年間で27名が正社員となりました。

【育児との両立を支援】

パート社員を含む全従業員が、働きながら育児できるように、育児支援制度を整備しています。特に出産・育児をサポートする企業として、法定水準を上回る処遇にしています。例えば、「慣らし保育」の期間をフォローするため、休業できる期間を1歳到達直後の5月15日まで延長し、育児短時間勤務は小学校4年生まで利用できる制度にしています。2012年11月現在、正社員のうち、育児休職者は27名、育児短時間勤務者は53名で、これは正社員全体の9.2%を占めており、出産・育児を経験した多くの社員が職場復帰し活躍しています。2012年4月には、社員の出産祝金を改定し、最高30万円としました。新たに、子育て中の全従業員を対象に社員割引制度も導入し、子育てを支援しています。また、社内SNS「育アカチャンネル」を立ち上げ、育児をしながら働く仲間同士のつながりをサポートしています。



「育アカチャンネル」WEB画面

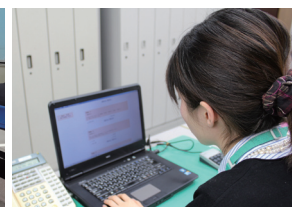
③能力向上支援

【人材育成について】

能力開発の一環として、各種研修を行っています。集合研修だけでなく、現場での研修も重視し、業務の習得度を確認する社内検定も実施しています。これは全従業員が対象で、技能検定やWEBでのテストなど、自らの成長度を測る基準となっています。また、自己啓発のための通信研修も実施。受講費用の一部を会社が補助することで、自らの学ぶ意欲をバックアップしています。



各種研修の様子



WEBを活用した社内検定の様子

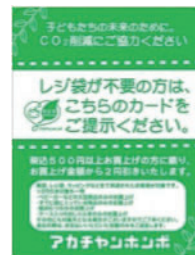
社会への貢献



●環境負荷の低減

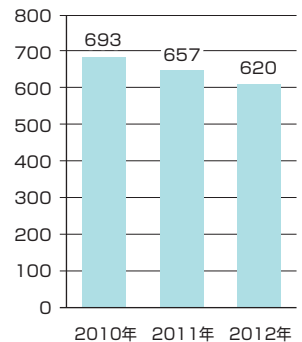
①エコ割引の推進とレジ袋削減への取り組み

2009年6月から、CO₂削減の取り組みの一つとして、500円以上お買い上げいただいた方を対象とし、レジ袋はいりませんとお申し出いただいた場合、2円値引きする「エコ割引」を実施しています。レジにはPOPとレジ袋不要カードを設置し、利用促進を図っています。2009年11月に、ケータイサイトでのアンケートを実施した際、エコ割引について知っている人は24%、利用したことがあると答えた人は21%でした。エコ割引実施1年以上を経て、認知度や利用度は上がってきており、更なる制度の普及に今後も力を入れていきます。



レジ袋不要の提示カード

レジ資材CO₂排出量(t)の推移



※袋を完全燃焼した際の近似値
※レジ資材としてポリ袋と紙袋を使用。
その使用枚数が2010年以降、減少しています。

②節電

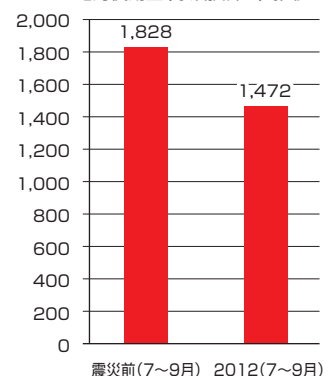
【節電実績】

2011年に発生した東日本大震災以降、慢性的に発生している電力不足に対して、2012年夏（7～9月）に、本社をはじめ、関西電力・九州電力管区の店舗を中心に照明や空調を中心とした節電対策を実施しました。震災前の2010年夏の電力使用量（原油換算）に対し、2012年の同時期、全社の既存店ベースで19.5%の節電を達成しました。

【LED化への取り組み】

2012年6月から、浜松宮竹店、草津店、久御山店、西宮北口店の4店舗で、店内基本照明のLED化を実施。これにより、導入後の7～10月までの4店舗の電灯電力使用量を平均31%削減することができました。今後も、自社物件や電力使用量の多い大型店舗を中心に、計画的にLED化を進め節電に取り組んでいきます。

電力使用量（原油換算kl）推移



③リサイクル

店舗で使用する什器類において、一部をリサイクル可能な材質のものに変更しています。

【組布団展示用什器】

壁面上部の展示用什器を従来の木製から段ボール製に変更（2012年の新店から）。一部古紙を使用しており、使用後はリサイクル可能で焼却もできます。



【シューズ展示用底上げ器具】

アクリル製から段ボール製に変更（2012年の新店から）。原料は牛乳パックを使用しており、使用後はリサイクル可能で焼却もできます。



社会への貢献



●地域社会との共生

①地域の子育て支援活動

都道府県や市町村が取り組んでいる子育て応援事業への登録を実施しています。「子育てにやさしい店」として、おむつ替えスペースや授乳スペース、ミルクのお湯提供など地域の皆さまにご利用いただきやすい売場環境を整えています。

都道府県	登録事業	市町村	登録事業
北海道	北海道赤ちゃんのほっとステーション	旭川市	旭川市ごんには赤ちゃんステーション
青森県	あおもり子育て応援わくわく店	青森市	授乳室設置一覧に掲載
群馬県	ぐ〜ちょきパスポート	宇都宮市	赤ちゃんの駅
埼玉県	パパママ応援ショップ	春日部市	赤ちゃんの駅(春日部版)
千葉県	子育て応援チーパスネット	横浜市	ハマハグ
東京都	赤ちゃん・ふらっと事業	岐阜市	びよか
石川県	赤ちゃんの駅(プレミアムパスポート事業)	高槻市	赤ちゃんの駅
長野県	ながの子育て家庭優待パスポート	飯塚市	赤ちゃんの駅
岐阜県	ぎふっこカード		
静岡県	しずおか子育て優待カード		
愛知県	はぐみんカード		
滋賀県	淡海子育て応援団		
京都府	きょうと子育て応援パスポート		
大阪府	まいど子どもカード		
兵庫県	ひょうご子育て応援の店		
奈良県	なら子育て応援団		
広島県	子育て応援 イクちゃん		
愛媛県	えひめのびのび子育て応援隊		
福岡県	子育て応援の店		
佐賀県	子育て応援の店		

2012年12月現在、登録しているのは20都道府県8市町村で、参加店舗数は64店舗です。



「埼玉県 赤ちゃんの駅」
子育て家族が安心して外出できる環境づくりを進めることを目的としています。



「福岡県 子育て応援の店」



「兵庫県 ひょうご子育て応援の店」

②地域教育機関との連携

【中学校での体験授業への協力】

助産師と連携し、中学校での体験学習を実施。2012年12月4日、尼崎市立成良中学校に赤ちゃん人形と妊婦体験ジャケットを貸し出し、命の大切さを学ぶ授業で使用していただきました。

【職場体験生徒の受け入れ】

店舗における取り組みとして、中学生や養護学校の生徒を受け入れ、職場体験をしてもらいました。



生徒さんの体験実習の様子



助産師の方の特別授業の様子

社会への貢献



●社会貢献活動

① ホワイトリボン運動

【ホワイトリボン運動の応援】

2009年5月から、国際協力NGOジョイセフが推進している「ホワイトリボン運動」の趣旨に賛同し、店頭で募金箱を設置するなどの活動を実施してきました。アカチャンホンポは、世界中のママと赤ちゃんの命を守る、ホワイトリボン運動を応援しています。

【赤ちゃんの肌着をザンビアへ届けよう!】

2010年4月から、お客さまの不要になった赤ちゃんの肌着・ウェアをお預かりし、それをザンビアに届ける活動を実施してきました。開始当初は数店舗のみで実施していましたが、2011年11月には全店で実施(受付期間は限定)。2012年8月以降は、20店舗での継続的な回収を始め、認知度もあがってきました。赤ちゃんの肌着・ウェアは、妊産婦・乳幼児健診の巡回活動などで配布したり、妊婦さんの安全なお産を守るため、ジョイセフによって建設されたマタニティ待機ハウスの利用促進にも活用されています。

- ▶ **第1弾** 2010年4月15日～5月7日(1店舗)
- ▶ **第2弾** 2010年6月21日～7月4日(9店舗)
※約2,000枚の肌着・ウェアが集まりました。
- ▶ **第3弾** 2011年3月実施を中止※東日本大震災の対応のため
- ▶ **第4弾** 2011年7月1日～7月14日(49店舗)
- ▶ **第5弾** 2011年11月17日～11月30日(全店)※一部店舗除く
※約45,000枚の肌着・ウェアが集まりました。
- ▶ **第6弾** 2012年7月18日～7月31日(全店)※一部店舗除く
- ▶ **継続回収** 2012年8月1日～12月31日(20店舗)
※約18,000枚の肌着・ウェアが集まりました。

※2013年1月1日～6月30日まで20店舗での回収を継続しています。



White Ribbon
世界中の妊産婦を守る
©JOICFP



ジョイセフ
JOICFP
途上国の妊産婦と女性を守る

ホワイトリボン運動とは、国際協力NGOジョイセフが推進している、世界中の妊産婦と赤ちゃんの命を守る運動です。
国際協力NGOジョイセフのホームページ <http://www.joicfp.or.jp/>



ザンビアで肌着を配布する様子

【アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト】

2012年5月から、「アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト」の取り組みを開始。店頭やインターネットでの募金受付やチャリティワークショップを開催するなどの活動をしてきました。また2012年9月には全国52か所にホワイトリボン支援自動販売機を設置しました。この自動販売機でのお買い上げ1本につき2円がこのプロジェクトへ寄付されます。

アフリカ・ザンビアでは自宅から保健施設(病院)がとても遠く、いざ陣痛が来ても、お産に間に合わないママたちがいます。結果として自宅での不衛生な環境で出産し、緊急時の対応が遅れ、命を落としてしまうケースが多発しています。マタニティハウス(出産待機施設)があれば救える命があります。アカチャンホンポは、「アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト」として、国際協力NGOジョイセフとのパートナーシップのもとこの活動を応援しています。

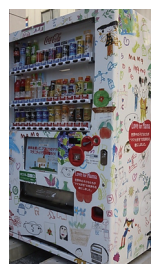
世界中のママが幸せに出産し、健やかに赤ちゃんが育ちますように。「世界みんなでハッピー出産。」を合言葉に、プロジェクトを行っています。



既に完成しているマタニティハウス第1号。これが出来たことで近隣の地域からも必要性の声が多く寄せられています。



チャリティワークショップの様子



ホワイトリボン支援自販機

2012年5月～12月までに店頭・インターネットでお預かりした募金金額 434,714円
(うち44,300円はチャリティワークショップでいただいた募金です。)

2012年9月～12月までにホワイトリボン支援自動販売機で集まった金額 244,570円

同プロジェクトの当社ポスター

社会への貢献



②被災地の妊産婦支援

【店頭募金活動】

東日本大震災発生直後から店頭で募金箱を設置し、2011年5月31日までに3,769,449円の募金が集まり、セブン&アイホールディングスより被災された各県と長野県栄村へお届けしました。その後6月以降も「被災されたママと赤ちゃんのために寄付したい」というご要望を受けて、被災地の妊産婦募金を実施しました。2011年6月1日～2012年3月31日までに830,369円が集まり、全て、国際協力NGOジョイセフを通じて被災地の妊産婦や赤ちゃんのために役立てられました。

※うち258,300円は、アカチャンホンポの店頭で実施したチャリティワークショップでいただいた募金です。(2012年3月31日で被災地の店頭募金活動は終了しました。)

【被災地のママに必要なものを届けよう!募金】

アカチャンホンポ通販サイトで、「被災地のママに必要なものを届けよう!募金」を2011年5月27日から実施しました。この取り組みは「妊産婦と赤ちゃんのニーズに合ったものを、ニーズのあるときに、ニーズのあるところへ届けたい!」という思いで始めました。2011年5月27日～2012年12月13日までに503,500円が集まり、国際協力NGOジョイセフと連携し、助産師などを通じて現地の声を聞き、東日本大震災で被災された妊産婦や赤ちゃんが必要としているものに換えてお届けしました。第1回～第6回までそれぞれの時期に必要とされているものを助産師の方のお話をうかがい、商品を決めました。(2012年12月13日でこの募金活動は終了しました。)



第3回目のお届けの様子。助産師の方が新生児訪問をした際に、おしりふきなどをお渡ししました。



第5回目のお届けの様子。赤ちゃんにしゃかしゃか音のなるおもちゃをプレゼントしました。



福島県相馬市で活動されているママサークル「HaPPy MaMa」の皆さまからお礼のメッセージをいただきました。

③その他の活動

【エコキャップ回収】

従業員の取り組みとしてペットボトルのキャップを集めてNPO法人エコキャップ推進協会に送付しています。800個でポリオワクチン1人分が購入できます。2009年の取り組み開始から、2012年12月末で、172,980個、約215人分のワクチンになりました。

～未来のために、子どもたちのために～



株式会社 アカちゃん本舗「取り組み報告書2012」 2012年12月31日

アカチャンホンポのホームページ内「未来のために」では、取り組みについて、内容を随時更新して掲載しています。
<http://www.akachan.jp/csr/index.html>